

「STEAM教育」実践中！

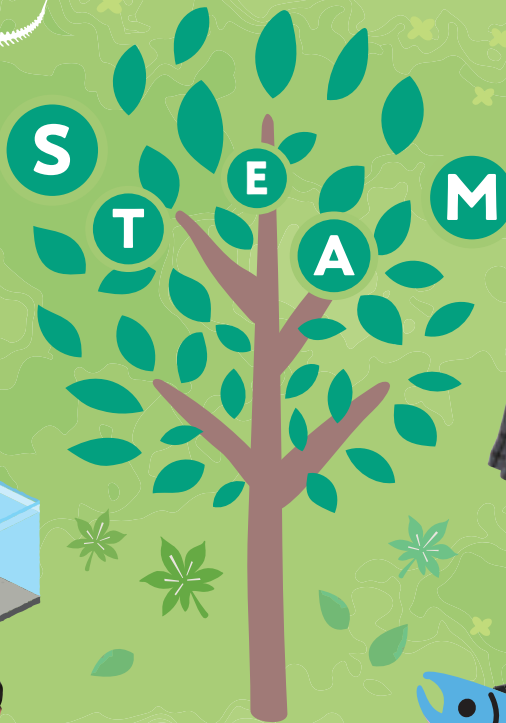
男女共学・中高一貫教育校・大学併設校

東京農業大学 第三高等学校 附属中学校

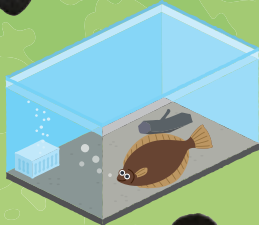
The Third Junior High School,
Tokyo University of Agriculture

School Guide

2024



```
jdkqjfalovf->tsnjortjaa  
jskjkjja- (kjduhuahk)-  
dkajfkodjfoihrvwkeopje :  
}  
kdnafjgrjgm () fjsaa  
ksoaujdojjm kauodujg  
}
```





ダイズ栽培

1年間の栽培を通して、食べ物が食卓に届くまでの苦労を知ると同時に、専門家指導のもと細かく検証・観察することで、仮説検証の重要性やよりよい農業について学びます。



浪漫祭（文化祭）

生徒会を中心に生徒全員が一致団結し、アイデアを出し合って開催する浪漫祭。企画から運営まですべて生徒主導でおこなうことで多くの学びが得られ、大きく成長できます。



多文化交流

世界と日本の2つの視点に立った国際教育を通して、国際社会で求められる英語を用いた高度なコミュニケーション能力と、世界基準のグローバルな視野を養います。



Let's Study!
文理融合を目指す

STEAM

**農大三中・三高の究理探新*が更なる進化！
予測不可能な未来を生き抜く力を育みます。**

農大三中・三高では、「STEAM教育」をベースに究理探新の「実学教育」「国際教育」「キャリア教育」「人間教育」を更に進化させました。文理融合の教科・体験学習を通じて、自分だけでなく、他者を幸せにするための学びの姿勢を構築し、予測困難な未来社会を生き抜く「人間力」を育みます。



ヒラメの養殖

ヒラメの生態を調査しながら、多角的な視点で水産業について学ぶプログラム。「命」の大切さだけでなく、日本が抱える「食」の課題を理解し、解決策を考えます。



キャリアプログラム

技術系企業講演会や職業体験などを通して、生徒が自分の将来について能動的に考えられるようにサポート。実学を取り入れた多彩なプログラムで、夢を明確にします。



修学旅行

世界自然遺産である知床、釧路湿原の散策や水産加工体験、北海道開拓の歴史や先住民アイヌの文化などに触れる「体験型」修学旅行は、実学教育の集大成です。



フィールドラーニング

学校を飛び出し、社会や自然の中で学ぶフィールドラーニング。授業で学んだことを暗記で終わらせず、現場に行き、実物を見て、肌で感じることで、「生きた知識」が身につきます。



*究理探新は、農大三中・三高の教育コンセプトを伝えるキーメッセージです。「究理探新」…道理・本質を究めて新しいものを探る

**実学をもって人を育み、実りを世界に還す。
それが農大精神を受け継ぐ、農大三中・三高の使命。**

教育理念

不屈 探究 信頼
Indomitability Inquiry Reliability

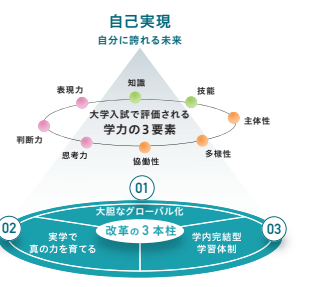
教育方針

地域社会に貢献し、国際社会で活躍する「21世紀を担う国際人」の育成を目指す

不屈の精神で幕末から維新を駆け抜けた「榎本武揚」が設立し、明治農学の第一人者「横井時敬」が建学の理念を確立した東京農業大学。農大スピリットといわれるその教育精神は、実学教育の名のもと、農大三中・三高の理念として深く息づいています。

**「STEAM教育プログラム」と連携する
大学入試の先を見据えた農大三中・三高教育改革の3本柱。**

絶え間なく変化するための社会を生き抜くうえで必要な、既存の価値観にとらわれない柔軟な対応力は、知識を詰め込むだけでは到底身につけることはできません。農大三中・三高ではその基盤となる、大学入試改革で問われる「学力の3要素」の育成に向け、「①大胆なグローバル化」「②実学で真の力を育てる」「③学内完結型学習体制」の3本柱で教育改革を実施。「STEAM教育プログラム」と連携させながら「次世代型学力」を軸とした新たな教育を行っています。



大学進学その先へ。 未来を拓き、時代を生き抜く力を育む6年間。

ビジネス市場、技術革新、地球環境。あらゆるものが驚くべきスピードで変化していく現代社会の中で、今後頼りになるのが「世界のどこでも生き抜ける能力」です。農大三中・三高の6年間はまさにそのための育成期間。実学を土台とする多彩な教育プログラムを通じて、自ら考え、行動し、未来を拓く新しい人材を育てます。



ホームページにて学校紹介とホームステイの様子を公開中!

触れて、見て、体験する 実学フィールド

[年間行事紹介]

	基礎力充実期		応用発展期		進路実現期
	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2
目 標	実学的考え方のベースを創る		能動的にキャリアを選択する		大学進学を実現する
目 的	<ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめる 社会と自己の関係について考える 仕事を知り、生きることの意義を考える 		<ul style="list-style-type: none"> 大学を知る 適切な進路選択をする 		<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献意識を高める 将来へのモチベーションを高める
概 要	文章を書いたり、自分が住む地域を調べたりしながら、自分自身や自分と社会の関係について考えます。また、職業調べ、職業体験などを通して、仕事や生き方について考えます。		自己理解や職業知識をベースに大学 について調べ、これからの進路を実現させる方法を具体的にイメージします。		大学入試に向けて環境を整え、モチベーションを高めます。さらに、興味のある大学のオープンキャンパスなどを通して、大学進学後を意識します。
クラス編成	習熟度別授業 (数学)		習熟度別クラス		習熟度別クラス 理系 (高2から) 習熟度別クラス 文系 (高2から)

	実学教育	国際教育	キャリア教育	人間教育			
学 力	<ul style="list-style-type: none"> 醸造体験 博物館研修 (国立科学博物館・国立西洋美術館見学) フィールドラーニング 	<ul style="list-style-type: none"> イングリッシュワークショップ (留学生との交流会) 英語検定 百人一首大会 華道体験 オンライン英会話 	<ul style="list-style-type: none"> 畜産体験 養殖体験 博物館研修 (江戸東京博物館見学) フィールドラーニング 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルイングリッシュキャンプ 英語検定 オンライン英会話 	<ul style="list-style-type: none"> 体験型修学旅行 (北海道/自然観察・農業・水産業体験) フィールドラーニング 	<ul style="list-style-type: none"> フィールドラーニング サマーセミナー 	<ul style="list-style-type: none"> フィールドラーニング
進路選択力	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解 技術系企業講演会 プログラミング講座 	<ul style="list-style-type: none"> 職業体験 進路講演 技術系企業講演会 プログラミング講座 	<ul style="list-style-type: none"> 学部、学科研究 進路講演 模擬ゼミ体験 技術系企業講演会 プログラミング講座 	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 文理選択 (新書レポート) 進路講演 オープンキャンパス プログラミング講座 	<ul style="list-style-type: none"> 大学研究 (探究レポート) 進路講演 オープンキャンパス プログラミング講座 	<ul style="list-style-type: none"> 進路研究 進路講演 オープンキャンパス プログラミング講座 	
人 間 力	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 教養講座 芸術鑑賞・浪漫祭・体育祭 スリーデーマーチ 校内マラソン大会 合唱コンクール 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術鑑賞 浪漫祭 体育祭 スリーデーマーチ 校内マラソン大会 合唱コンクール 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術鑑賞 浪漫祭 体育祭 スリーデーマーチ 校内マラソン大会 合唱コンクール 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術鑑賞 浪漫祭 体育祭 球技大会 校内マラソン大会 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術鑑賞 浪漫祭 体育祭 球技大会 校内マラソン大会 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術鑑賞 浪漫祭 体育祭 校内マラソン大会 	



進学実績

志望大学への
現役合格



中高一貫教育の集大成!
農大三中・三高の1期から9期の先輩たちが大学入試に臨み、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学をはじめとする多くの最難関国立・私立大学への現役合格を果たしています。
農大三中・三高では、併設大学である東京農業大学・東京情報大学への「学校推薦型入試制度」があり、この制度を利用して進学する生徒も少なくありません。農大・情報大を目指す人にはうれしい制度です。

第1～9期生の主な進学先

国立大学	東京大学 北海道大学 群馬大学 群馬大学 (医学部) 筑波大学 (医学部) 防衛医科大学校 東京医科大学 お茶の水女子大学 東北大学 東京工業大学 東京農工大学	東京学芸大学 埼玉大学 宇都宮大学 茨城大学 千葉大学 横浜国立大学 浜松医科大学 東京理科大学 富山大学
私立大学	早稲田大学 慶應義塾大学 上智大学 東京理科大学 東京農業大学 明治大学 青山学院大学 立教大学	中央大学 法政大学 昭和大学 (医学部) 国際基督教大学 学習院大学 昭和薬科大学 東京薬科大学

6年間の学び ①

中1・2

基礎力充実期

気の置けないクラスメイトに囲まれて
着実に成長できる

生徒同士の距離が近く、お互いを尊重している、様々な意見を出し合える関係を築くことができます。自分とは異なる考えや視点に触れることで、視野が広がり、いろいろな角度から自分自身を見つめ直す良いきっかけになります。また、農大三中でしかない体験学習も豊富にあるので、成長を実感できる場面がたくさんあります。

中学2年 澤田 奏さん

興味・関心の幅を広げて
生徒の「生きる力」を育てる

中学1・2年次は、生徒の興味・関心の幅を広げ、自主性を育てることが大切です。そのために、生徒自身が考え、行動できる機会を多く与えるようにしています。各分野の専門家が指導する実学教育では、好奇心を刺激しながら、長所を伸ばす多くの体験ができます。これからも生徒の生きる力を高めながら、勉学に励める環境作りを行っています。

佐藤 西 教諭

実学的考え方の ベースを創る

学習への興味を広げながら、基礎学力を定着させ、英数国は中学での学習内容をほぼ終えます。同時に、自己を見つめコミュニケーションの土台を形成し、社会と自己の関係を理解します。



少人数・習熟度別授業で
わからない生徒をつくらない

学んだ内容がどの程度身についているのかを確認する「サポートテスト」を、主要5教科(英数国理社)を中心に定期的実施します。これにより、できなかった部分について集中的な学び直しを行い、「本物の学力」の定着を図ります。また、苦手意識を持ちやすく、理解度にバラつきが発生しやすい数学は、中学1年次から理解度に応じてクラスを分割する、少人数・習熟度別授業を実施しています。「わかる」ことを重視した授業展開で、わからない人をつくらない。これが農大三中・三高の授業です。

教員、保護者と連携して自宅学習までを
トータルサポート

本校には、学校の教育プログラムの一環として、自立学習支援システム(EdOM)が導入されています。EdOMは、Education(教育)・Opportunity(機会)・Motivation(動機)の3つの頭文字をとって名付けられました。全生徒を対象として放課後に学校内で自習室と講習を実施し、自宅に帰ってから、Zoomをつないで講習や質問対応を実施します。また、定期的には保護者会や面談を実施し、情報を共有します。生徒の目標の実現に向けて、学校・保護者・EdOMの三位一体で学習をサポートします。



6年間の学び ②

中3~高2

応用発展期

能動的に キャリアを選択する

中学の学習内容の定着を図りながら、ほぼ全教科の高校の学習内容を高校2年までに終えます。高校の文理選択後は、自己理解や職業知識をベースに大学を意識した進路実現を考えます。

自分に自信を持てるようになったことで
判断力も身についた

農大三中の特色である、多彩な教育カリキュラムをこなすことで、自分に自信を持てるようになりました。そのおかげで、何事も自分で考え、より良い判断をする力も身についたと思います。国際教育のプログラムを通して英語を使ったコミュニケーションの楽しさを実感できたので、将来は海外で活躍できる人材になりたいと思っています。

中学3年 松田 真果さん

実学を取り入れたプログラムで、
理想的な将来を実現できる

能動的なキャリア選択ができるように、職業理解を深める「職業探求プログラム」や「学部、学科研究」「模擬ゼミ体験」などを通して、早い段階から理想的な将来像や進路をイメージできるようにしています。それと並行して、中学生の時から大学受験を意識させ、高一貫校の強みを活かした6年スパンのカリキュラムを組むことで、志望校合格を実現します。

松吉 杏佳 教諭



ICTによる効率的な授業と
先取り型の濃密カリキュラム

農大三中では、公立中学校3年間分の授業内容を中学2年次までにほぼ完了する、内容の濃い独自のカリキュラムを組んでいます。主要3教科(英数国)に関しては、公立中学校の約1.5倍の授業時間を確保しています。もちろん、単に授業数を増やして詰め込むだけの学習にならないよう、さまざまな工夫をしています。その一例が、電子黒板やタブレット端末によるICT教育です。板書時間を節約し演習時間に充てたり、生徒の解答状況を瞬時に把握したりすることにより、理解度に合った質の高い授業を展開しています。

実学教育に基づく英語教育で
大学入学後も使える英語力を

大学での研究や実社会で「使える英語」として磨きをかけるのが、中高6年間の英語教育です。高校2年次のオーストラリア修学旅行では、数班に分かれ農場に滞在するファームステイを実施します。現地では英語による日常のコミュニケーションを、生徒全員が体験します。帰国後は、英語スピーチコンテストを実施するほか、近年大学入試で導入が加速する英語検定やGTEC等の外部検定でのハイスコアを目指し、ネイティブによる徹底した指導で4技能(聞く・話す・読む・書く)の向上を図ります。

自立した学習により自己の
限界突破を目指すサマーセミナー

サマーセミナーは高校1年生の参加希望者から選抜された生徒が参加し、難関大学レベルの講習や自学自習を通して学力を高めるとともに、自分の学習を見つめ直すきっかけとします。学習意欲を十分に高めて、コースを越えて集まった仲間と切磋琢磨し合い、自己の限界突破を目指します。

6年間の学び③

高3

進路実現期

大学進学を 実現する

担任教員と進路指導部の情報連携で、中学生のときから生徒一人ひとりをきめ細かくサポート。大学入試問題演習を早期より展開し、知識と思考力に磨きをかけ、目標大学への現役合格を目指します。

大好きな先生たちとの出会いが
私の人生を大きく変えてくれた

農大三中・三高の先生は、様々な経歴を持った個性的な方ばかりなので、学校に通うのが楽しくなります。授業が分かりやすいのはもちろん、興味深い話を聞くたびに、自分の視野が広がっていくのを感じます。志望校に悩んでいた時も親身になってアドバイスをしてくださったので、進路を決めることができました。農大三中に入学したら、好きな先生に必ず出会えると信じていました。

高校3年 今 六花さん

個人のモチベーションアップと 集団の意識を高めて受験に挑む

進路実現期の生徒には、個と集団の両方の意識を高めるように指導しています。受験は個人の力で決まりますが、共に挑むクラスの雰囲気も重要だからです。個人面談では生徒がポジティブな気持ちになれるように接して、ホームルームでは、集団の意識の重要性を説いています。全員が志望校に合格できるように、サポート役として最後まで後押ししていきます。

中村 有哉 教諭

多種多様な課外講座(無料)で 希望進路の実現を全力サポート

農大三中・三高では、6年間を通じて無料で受講できる課外講座を豊富に用意しています。高校1・2年次は各教科の基礎的復習と受験に向けた発展的演習を中心に、高校3年次は難関国公立・私立大学対策、重要単元復習を中心とした多種多様な講座を開講しています。特に高校3年次は、放課後・夏期・冬期講習に加え、小論文指導や入試直前講習(12月)など、より実践的で効果的な、大学受験を意識した指導を行うなど、生徒全員の希望進路実現に向けた強力なサポート体制を組んでいます。

高大連携によるキャリア教育で ミスマッチのない進路を実現

高校3年間で、高大連携によるキャリア教育を継続して行います。進路講演では、併設大学の東京農業大学をはじめ、さまざまな大学の学部・学科の説明会を実施します。自分が学びたい学問や、将来就きたい職業のために、進むべき学部・学科を調べ、夏休みのオープンキャンパスにつなげます。希望する大学に実際に足を運び、オープンキャンパスでの模擬授業などの体験を通して、大学受験に向けてのイメージや目標を具体化させ、モチベーションを高めていきます。

大学合格後へのリアルな想いを 入試を勝ち抜く大きな力に

厳しい大学入試を耐え抜き、勝利を手にするためには「この大学のこの学部で学びたい」という強い想いが必要不可欠です。農大三中・三高では、追い込み期となる高校3年の夏を前に、卒業生による「進路報告会」と30を超える大学の講師たちによる「進路ガイダンス」を実施します。勉強と部活動の両立、模試の活用法や勉強法など、合格者が語るリアルな体験から受験に向けた心構えを学びます。さらに、進路ガイダンスで大学合格後のビジョンを明確化することにより、大学受験へのモチベーションを高めます。



難関大学合格者メッセージ



夢と出会い、実現できる 恵まれた環境が農大三中・三高にはある

子どもの頃から動物が大好きで、漠然と動物関係の仕事に就きたいと考えていました。その夢が明確になったのが、高校生の時に行われた「新書レポート」です。興味がある分野の新書を読んで、発表する授業なのですが、そこで私は野生動物の保全について書かれた新書を発表しました。その時にいろいろと調べたことで、生態系の保全についてもっと学びたいという気持ちが強くなり、進路を決めました。受験期は悩んだこともあるのですが、時期に応じて適切な勉強方法をアドバイスしていただくなど、先生方の手厚いサポートのおかげで合格することができました。

北海道大学 総合教育部 1年
鱒淵 瑛梨さん(2022年度卒)

東京農業大学第三高等学校附属中学校の生徒だった、姉や従兄の影響で2017年に入学。家族旅行で訪れたキャンパスに憧れを抱き、北海道大学の受験を決意。高校では、3年生の夏引退まで吹奏楽部に所属し、演奏会などを開催していた。部活動と受験勉強を両立させて、志望校合格を果たす。

授業がそのまま受験対策に 試験開始の直前まで読み込んだ授業プリント

農大三中・三高の授業では徹底した受験対策ができるので、そこで学んだことだけで志望校合格を目指すことができます。その中で私が特に好きだったのは、日本史の授業です。先生が作成したプリントは要点が分かりやすくまとめられているので、それを参考書代わりに勉強するだけで、成績がグングン向上。入試会場でも、試験開始の直前までプリントを見返して、最終確認をしていました。この学校に入学していなかったら、難関大学に合格できていなかったと思うので、一緒に受験期を乗り越えたクラスメイト、いつも親身になって支えてくれた先生方には本当に感謝しています。

中央大学 法学部 法律学科 1年
福田 有さん(2022年度卒)

2017年に、東京農業大学第三高等学校附属中学校に入学。日本史の授業を受けて、得意科目になっただけでなく、「人々の考えや行動がその時代の法律やルールに大きく左右される」ことに興味を持つようになる。法律についてより深く学ぶために、中央大学法学部に進学した



子どもの頃の夢を叶えた卒業生

小さい頃から食べることが大好きで、食品関係の仕事に就くのが夢だったという宮永さん。農大三中・三高から東京農業大学への進学を経て、社員食堂や病院給食などの管理・運営をおこなう企業に就職。見事に夢を叶えて、社会人として活躍する彼女に、学校生活について振り返ってもらいました。

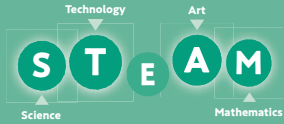
すべての経験が一生の思い出 勉強も遊びも充実の、濃い学校生活が送れる

卒業して7年ほど経ちますが、中学・高校時代を思い返してみると、楽しかった思い出がいっぱいあります。オホーツク海の大自然を堪能できる修学旅行や、生徒同士で出し物を企画する文化祭。自分たちで育てたダイズで味噌をつくる醸造体験など、貴重な体験の数々は今でも鮮明に残っているだけでなく、周りに話すと驚かれます。また、何事も生徒の考えを尊重し、挑戦をサポートしてくれるので、社会に出てからも活かせる大切なスキルを身につけることもできます。農大三中・三高なら、人間的にも大きく成長できると思います。

株式会社LEOC
宮永 あゆきさん(2016年度卒)

卒業と同時に管理栄養士の受験資格が得られる、東京農業大学への進学を見据えて、東京農業大学第三高等学校附属中学校に入学。現在は子どもの頃からの夢であった食品関係の企業に就職。取得した管理栄養士の資格を活かし、高齢者施設などで一人ひとりに合った食事の調理や、提供などを行っている。

実学教育



学びの礎となる「自ら学ぶ力」を育む、
農大三中・三高の
アクティブラーニング

実学教育は、学びを深め成長に導く「自ら学ぶ力」を育むための、農大三中・三高ならではのアクティブラーニングです。フィールドラーニング・醸造・養殖といった、五感を使った体験型学習の機会を数多く取り入れています。また、学ぶテーマや授業スタイルに合わせ、電子黒板やタブレット端末などのICT教材を積極的に活用します。学ぶことへの関心・意欲を高め、柔軟な思考力と実践力を育てています。

中学3年
齋藤 真実 さん

高校2年
岡野 朔也 さん



療薬を使うこともできません。毎日2人1組の当番制を敷いて、些細な変化にも気づけるように飼育することは大変でしたが、無事に成魚まで育った時はとても嬉しかったです。
渡邊 体験を通して、気づいたことは？
齋藤 最後に育てたヒラメをいただくのですが、その時に命の大切さを学びました。また、食品が家庭に届けられるまでの過程を知

ちが楽しんできたので、本当に良かったです。
渡邊 学校全体に視野を広げて、計画的に行動できるのは、素晴らしいことだと思います。
岡野 実学教育のプログラムを通して、計画を立てること、細部まで手を抜かないことの重要性を学びました。その2つが文化祭を実行する上でも、活かされたと思います。

多くの実験が知識の糧になる

渡邊 2人が好きな授業を教えてください。
岡野 どの授業も楽しいのですが、特に理科の授業が好きです。実験が多いため、深く学べて、知識の定着率も高くなるからです。
齋藤 私も理科の授業が好きです。その中でも、豚の目の解剖が印象に残っています。視神経の周りに肉がついていて、生々しかったのも印象的ですが、メスを入れて観察していくことで、組織の硬さや位置などを皮膚感覚で学ぶことができました。教科書を読むだけでは分からない体験ができて、とても勉強になったのを覚えています。
渡邊 2人ともプログラムを通して、大きく成長していることが分かりとても嬉しいです。これからも積極的に学んでいってください。



自然に恵まれた環境で行う実学教育。教科書の枠を超えて、体験したからこそ気づく様々な発見が勉強をより面白くしています。そして学ぶ対象をより深く知ることができま。アクティブラーニングを通して生徒たちはどのように成長したのか。その時の経験を振り返ってもらいました。

養殖体験を通して、「命」との向き合い方が変わった

渡邊 俊希 教諭 (以下、渡邊) 農大三中・三高では、様々な実学教育のプログラムを実施しています。印象に残っているものを教えてください。
齋藤 私は、中学2年次におこなったヒラメの養殖体験が印象に残っています。1クラス2匹ずつ、稚魚から育てるのですが、その時に養殖の大変さを実感しました。
渡邊 どのようなことが大変でしたか？
齋藤 ヒラメは海水魚なので、塩分濃度や水温などの水質管理を徹底する必要があります。養殖なので治

実践力が身につく実学教育

渡邊 岡野さんはどうですか？
岡野 中学3年次での修学旅行が一番印象に残っています。
渡邊 岡野さんの学年は新型コロナウイルス感染症の影響で予定が変更になり、生徒たちで行先を決めたのですよね。
岡野 グループに分かれて行先や予定を考え、その中から決めることになり、私のグループの企画が採用されました。企画を立てることが好きだったので、楽しい経験になりました。
渡邊 岡野さんは、中学生の時に生徒会長を務めて、文化祭の企画もおこなっていましたよね。
岡野 コロナ禍で学校イベントが減り、生徒の交流の機会が少なくなっていたので、学校を盛り上げるイベントを企画したいと思い、立候補しました。当時、文化祭も中止されることになったのですが、先生方と交渉した結果、感染対策を徹底した上で、開催することができました。規模は縮小しましたが、生徒た

ダイズ栽培/醸造体験

理科実験の基本姿勢が身につく ダイズ栽培から始める味噌づくり体験

屋上菜園での土壌整備に始まる「ダイズ栽培」と、自ら育てたダイズで行う「味噌づくり」は、「探究心」を育む実学教育の代表的な取り組みのひとつです。理科の学習と連動しながらのダイズ栽培では、比較栽培を行い、生育の違いを観察・検証することで、仮説検証のサイクルや、観察の大切さを学習します。また、味噌づくりを行う東京農業大学の研究室でも、麹の種類や醸造のしくみについて大学教授から学びます。



養殖体験

ヒラメを自ら育てる養殖体験を通じて 「命」や「食」の意味について深く考える

中学2年次に実施している「ヒラメの養殖体験」は、ヒラメを育てることを通じて、日本が抱える「食」の課題や「命」の大切さへの理解を深めることを目的としたプログラムです。NPO日本養殖振興会代表理事の指導のもと、5つの約束(①みんなで、②協力する、③考える、④行動する、⑤命を大切に)を生徒たちと交わりながら、日々成長する魚の命と関わります。さらに、成長したヒラメを自分たちで食べることで、命の大切さと食の意味について考えます。



論理的思考力/プレゼンテーション

グローバル社会での活躍に欠かせない 論理的な思考力と表現力を鍛える

農大三中ではアクティブラーニングの一環として、国語の授業で導入される特設カリキュラム「論理の時間」をはじめ、主体的・対話的で深い学びとなる授業の実践に取り組んでいます。自ら課題を持ち、解決方法を考え、議論しながら学習する中で、確かな知識や技能を身につけることができます。机上での学びだけでなく、校外に向向いて実際に触れる「フィールドラーニング」を実施しています。こうした「実学」のもとで、プレゼンテーション能力に取れんる学びを通して、論理的思考力・表現力を高めます。



体験型修学旅行(北海道)

農大三中の実学教育の集大成は 学びと感動に満ちた体験型修学旅行

中学3年で実施する北海道修学旅行は、「体験型」である点が大きな特長です。世界自然遺産でもある知床半島を含む道東の大自然のもと、東京農業大学の北海道オホーツクキャンパス(網走市)の見学にはじまり、水産加工体験(新巻さけづくり)、北海道開拓の歴史や先住民族であるアイヌの文化に触れるなど、実学教育の集大成にふさわしい最高の学びと感動がここに 있습니다。



国際教育



「高い英語力」と「考える力」を
使いこなせる、
骨太な国際人を目指して

多くの日本人が世界で活躍し、自己実現の場が国境を越えて広がる中、国際社会で求められるのは、英語を使いこなす
高度なコミュニケーション能力です。農大三中・三高では、自分の国の伝統や文化を理解し、グローバルな視野を育て
る多文化交流体験に加え、英語劇やプレゼンテーションといった実践の機会を数多く設けています。英語による表現力
を磨き自信を深めます。



中学2年
中嶋 瑞華 さん

高校3年
齋藤 樹 さん



海外語学研修や「グローバルイングリッシュプログラム」など、様々なカリキュラムがある農大
三中・三高。英語を用いた高度なコミュニケーション能力を備えた、世界に羽ばたく国際人
育成に取り組んでいます。実際に研修に参加した生徒に、現場で感じたことを伺いました。

人間力が磨かれる留学経験

劉 秋蔚 教諭 (以下、劉) 2人は英語が好きだそ
うですね。興味を持ったきっかけは何ですか？

中嶋 小学4年生の時に通っていた学習塾のイ
ベントで、フィリピンのセブ島に1週間、語学研
修に行ったことがきっかけです。その時にあまり
コミュニケーションを取らなかったで、もっと
英語を勉強したいと思うようになりました。

齋藤 私は高校2～3年生の時に行った3カ月間
の留学がきっかけです。それまで英語はあまり好き
ではなかったのですが、兄と姉が農大三中・三高の
プログラムで留学していて、留学には憧れがありま
した。実際に行ってみて、英語という言語をとても好

きになりました。

劉 齋藤さんが参加したのは、
オーストラリア・クイーンズランド州
立校への中期留学ですね。留学し
てみてどうでしたか？

齋藤 最初はホームシックになっ
たのですが、徐々にコミュニケーション
が取れるようになり、帰国す
る時はとても名残惜しかったです。

劉 ホームシックはどのように
克服したのですか？

齋藤 ホームシックになった一番の原因が、ホス
トファミリーの言っている内容が分からないこと
でした。しかし1週間くらい経つと、耳が慣れて
きて理解できるようになり、克服することができ
ました。

中嶋 英語でコミュニケーションを取れるよう
になるまでは、どれくらいかかりましたか？

齋藤 2カ月くらいだと思います。耳が慣れてか
らは、相手の言っていることは分かるけど、自分
の気持ちをスムーズには伝えられず、もどかしさ
を感じることもありましたが、ホストファミ
リリーや現地の学生がやさしく聞いてくれるので、
積極的に話していたところ、3カ月目くらいから
話せるようになりました。

中嶋 お話を聞いていると、私も留学意欲が増し
てきました。

齋藤 言葉が通じない国で、一人で何とかしな
いといけない場面が多くなるので、精神的にも大
きく成長できます。日本と海外の違いを直接学べ
る機会は貴重ですし、何より現地の友達ができる
ので、とても楽しいですよ！

豊富な英語体験が、国際人の下地を作る

劉 農大三中・三高には、他にも国際体験ができ
るプログラムがありますが、印象に残っているも
のを教えてください。

齋藤 私は中学2年次のグローバルイングリッ
シュキャンプです。外国人の先生を交えた少人数
グループを作って、英語だけで会話をし、2泊
3日のプログラムです。それまで人前で話すこと
があまり得意ではなかったのですが、この時の経
験で自信が付き、留学時に活かしたと思います。

中嶋 私は中学1年次に参加したイングリッシュワ
ークショップです。留学生とゲームなどをして交流を
図るイベントなので、いろいろな話が聞けて刺激
になりました。また、その時に話し合ったテーマ
について、文化祭で英語のスピーチをおこないました。

劉 英語のスピーチをしてみようでしたか？

中嶋 片言の英語にならないように、発音を意
識して練習したので、緊張したけどしっかりと話
すことができました。

劉 いろいろな経験をしているのは素晴らしいこ
とですね。これからも視野の広い国際人を目指
して、頑張ってください。



日本文化理解／異文化理解 (中1)

日本を知り、世界を知る グローバルな視野を育む2つの視点

「日本文化理解プログラム」では、華道や百人一首などを組み込み、
日本の文化に触れて、日本人としての誇りを培います。日本との違
いを肌で学ぶ「異文化理解プログラム」では、国内滞在の留学生と
の3日間の交流会(「イングリッシュワークショップ」)を校内で実施
します。世界と日本の2つの視点に立った国際教育で、国際社会の
一員としての自覚とグローバルな視野を育てます。



グローバルイングリッシュキャンプ (中2)

語学研修による多文化交流で 世界基準のコミュニケーションを実践

中学2年で3日間にわたって行われるグローバルイングリッ
シュキャンプは、多国籍の人と文化が共生するグローバル社会で必要
な「世界基準のコミュニケーション」を体験する宿泊型語学研修
です。10カ国を超える多国籍の方々と一緒にしながら、共通
語である英語を使い交流を深め、「簡単な英語でもこんなに伝わ
るんだ!」という感覚をつかむことで、英語を学ぶ意欲につなが
ていきます。



海外語学研修 (希望者対象：中3～高2)

長期留学と同じ環境を体験する 語学研修スタディーツアー

〈ニュージーランド語学研修〉

午前は英語リスニング、午後は現地校での授業で、リアルな海外生
活を体験。現地校の生徒が「スクールバディ」と呼ばれるペアとな
り、授業をサポートしてくれます。

〈河口湖アチーブングリッシュキャンプ〉

外国語講師による1日最大10時間の短期集中指導で、英語力の飛
躍的な向上が期待できます。発音訓練やスピーキングを中心に、英
語を用いた実践的なコミュニケーションスキルを養成します。



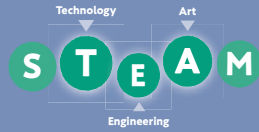
使える英語を目指す教育／受信と発信

発表を通じて英語による表現力を高め 「話す」から「伝える」英語へ

国際社会で通用する英語力は、知識・技能の習得に加え、豊かな
表現力・発信力が必要です。農大三中・三高では「Zoom」による
マンツーマン英語学習「オンライン英会話」を導入し、英語の受信
力・発信力を鍛えるほか、英語による発表の機会を多く用意。その
代表となる文化祭「浪漫祭」では、英会話や英語劇、デザイン
プレゼンテーションなど各学年のレベルに応じた内容で、実践を通
じて表現力に磨きをかけていきます。



キャリア教育



可能性を広げ、自ら考え、
選ぶ力を養う、
実践を重視したキャリア教育

興味を持った大学や職業など自分の将来について考え、その実現方法について、自ら調べ、さらに関心を高め、深く理解します。農大三中・三高では、生徒が主体的・能動的に進路選択ができるよう、キャリア教育にも実学教育を取り入れています。また、技術系企業講演会や進路講演・職業体験など、多彩なプログラムを通じて「働く自分」について考えていきます。



中学3年
荒井 楓雅 さん

高校3年
小幡 陽輝 さん



農大三中・三高では、生徒自身の将来の夢や目標を明確にするために、キャリア教育に力を入れています。学年ごとに進路相談を行い、生徒が主体的かつ能動的にキャリアの選択ができるようにサポートしています。2人の生徒に、思い描いているビジョンを聞きました。

農大三中・三高は 子どもの頃に描いた夢に近づける場所

中山 纈乃 教諭 (以下、中山) 2人は小学生の頃から夢があるそうですね。その夢を持ったきっかけを教えてください。

小幡 私は子どもの頃から和食が好きで、その中でも料理の味を引き立てる醤油に興味を持っていました。将来はおいしい醤油を開発できるように、食品関連の研究職に就きたいと思っています。

荒井 私は小学校の授業で、農業が地域貢献につながるという話を聞いたことがきっかけです。祖母の家庭菜園を手伝っていたこともあり、食物栽培が身近にあったのですが、その授業を受けた時に、農

業をサポートできるような仕事に就きたいと思うようになりました。その夢を実現するために、農業に関連する様々な体験ができる農大三中・三高で学びたいと思い、入学しました。

小幡 私も同じで、中学受験を考えた時に、農大三中・三高のカリキュラムだと自分の目標に近づけると感じて、志望しました。

中山 入学してみてもうでしたか？

荒井 いろいろな体験ができるのは、この学校ならではの、とても楽しいです。中でも、中学1年次におこなったダイズ栽培は、自分の夢と直結することでもあるので、一番嬉しい経験でした。

小幡 私もダイズ栽培と育てたダイズから味噌を作る醸造体験が一番印象に残っています。特に発酵の過程は、醤油作りとも共通する部分があると思うのでとても勉強になりました。こうした体験をすることで、自分の夢がより明確になったと思います。

中山 農大三中・三高の実学教育は、自主性を養うだけでなく、将来のビジョンを思い描く手助けにもなりますね。

中高一貫校ならではのキャリア形成

中山 農大三中・三高のプログラムを通して自分の夢と向き合うことができているというのは、教員としてとても嬉しいことです。実現に向けて、努力していることはありますか？

小幡 目の前の目標としては、志望校合格があります。そのために細かい学習計画を立てて、毎日質と量を意識して、受験勉強に動んでいます。や

はり、中高一貫校の強みでもあるのですが、学習カリキュラムを前倒して入試対策に多くの時間を充てられるので、とてもありがたいです。

中山 受験勉強は大変だと思いますが、小幡さんはコツコツと勉強できるタイプなので、これからも自分のペースで頑張ってほしいと思います。荒井さんはどうですか？
荒井 私の場合は、「農家をサポートしたい」という夢はあるのですが、技術面なのか、経営面なのか、どのようにサポートできる(したい)のか、という部分までは定まっていないので、その方法を考えていきたいと思っています。

中山 学校生活を通して、ヒントになりそうなものはありましたか？

荒井 中学2年次におこなったキャリアプログラムでは、働くことについて考える良いきっかけになりました。また、農大三中・三高にはユニークな先生がたくさんいて、話を聞くだけでとても刺激を受けるので、これからもたくさん吸収して、夢をより明確にしていきたいと思っています。

中山 2人の話を聞いていると、中高一貫の6年間という時間をフル活用して、キャリア形成をしているので、素晴らしいことだと思います。夢の実現に向けて、これからも頑張ってください！



キャリアデザインプログラム

実学を取り入れたプログラムで 理想の実現に必要な力を習得

中学1年では、自分史の作成、エゴグラム診断などをベースに自分と向き合うことからスタートします。中学2年では、職業調べや職業体験により職業理解を深めます。中学3年では、自らのライフプランを意識しながら大学を調べ、模擬ゼミ体験などを通して学問研究を進め、高校1・2年の間に、高校3年での自己実現につながる適切な進路を選択していきます。理想の実現に必要な力を、6年間をかけてじっくり養います。

<p>中1・中2</p> <p>実学的考え方のベースを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自己理解 ●技術系企業講演会・進路講演 ●職業体験
<p>中3・高1・高2</p> <p>能動的にキャリアを選択する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学部・学科研究 ●技術系企業講演会・進路講演 ●模擬ゼミ体験 ●文理選択 ●オープンキャンパス ●大学研究
<p>高3</p> <p>大学進学を実現する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●進路研究 ●進路講演 ●オープンキャンパス

プログラミング講座

最先端のプログラミング技術が学べる オンラインスクールを開講

世界的にIT人材の不足が叫ばれる中、プログラミングスキルを持った人材育成が急務になっています。しかし、日本では最先端技術を学べる環境が少ないのも事実です。そこで、プログラミング教育機関「MEP次世代教育」の協力のもと、希望者にはオンラインスクールを実施。IT先進国である台湾の経験豊富な講師陣が、基礎から応用まで指導しています。レベルに合わせた段階別学習で、プログラミングスキルと共に、論理的思考能力や課題解決能力も身につきます。

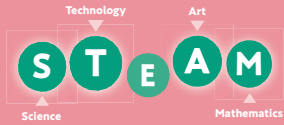
技術系企業講演会・進路講演

進路ステップに合わせたテーマで 6年間を通して豊富な講演を実施

6年間を通して多くの講演が行われるのも、農大三中・三高のキャリア教育の特長です。中学1・2年では、人間について考えを深める内容、中学3年から高校2年では、大学生や社会で活躍する卒業生を講師に迎えての講演、高校3年ではさらに視野を広げる内容といったように、進路ステップに合わせ多様な講演を実施します。高い志を持ち活躍する多くの方々の講演は、豊かな可能性に気づきを与え、進路選択の道標となります。



人間教育



世界を視野に多様な社会を生き抜く、
豊かな感性と
逞しい人間力を

「なれる未来」ではなく「なりたい未来」をつかむには、その地図となる10年、20年先の明確なビジョンを描く「創造力」、それを実現する力強い「人間力」が必要です。農大三中・三高では、学校行事をはじめ、芸術鑑賞やクラブ活動による情操教育や実践ワークを通じて、国際人にふさわしい品格、他者を理解・尊重し協働できる力を養い、多様な社会を生き抜く人材を育成します。



関係性が強まり、1～3年生までが同じ練習をするので、その交流を通してコミュニケーション能力が身についたと思います。
本橋 部活動に入ることによって上級生や下級生との交流が増えるので、クラスとは違った経験ができますね。
栗原 はい。特に大会出場時に、先輩方の活躍を見ると、「自分もこんな先輩になりたい」と憧れを抱くと同時に、目標にもなります。

志望大学への現役合格を目指して学力向上のカリキュラムを組む一方で、学校行事やクラブ活動といった情操教育も推進し、多様な社会を生き抜くための人間形成にも力を入れています。ここでは、クラブに所属している生徒に人間教育の観点から話を聞きました。

部活動の貴重な経験が成長を促す

本橋 恭平 教諭 (以下、本橋) 黒木さんは、陸上部に所属していますね。部活動の様子を教えてください。

黒木 とても楽しいです！ 元々走るのが好きで、中学生になったら陸上部に入りたいと思い、入部しました。タイムが縮まると嬉しくて、日々、充実しています。

本橋 栗原さんは中学時代から、バスケットに入部していたそうですね。部活動を通してなにが学んだことはありますか？

栗原 先輩との接し方について、一番学べたと思います。小学生の時までは、先輩・後輩の関係性はそれほど強くなかったのですが、中学生になるとその

近く目標があると努力もしやすいと思うので、技術的にも精神的にも成長が早くなると思います。

黒木 私も入部してから、先輩方とのコミュニケーションが増え、いろいろと学ぶことができます。陸上部の場合は高校生と一緒に練習するため、ハイレベルな練習を間近で見て常に刺激を受けています。

イベントを通して身につく様々なチカラ

本橋 印象的なイベントについて教えてください。

栗原 中学1年次の体育祭で発表した有志のダンスと、3年次におこなった体育祭の実況が楽しくて印象に残っています。

本橋 どういうところが楽しかったですか？

栗原 有志のダンスで、部活動とは別の先輩方と交流ができたことです。放課後の練習を通して、仲良くなることができました。また、実況は所属していた放送委員会でおこなったものです。一番上の先輩という中学3年生の立場で、後輩を指導しながら体育祭を盛り上げられたことがとても楽しく、思い出に残っています。

本橋 先輩、後輩と分け隔てなく交流できたのは、素晴らしい経験ですね。黒木さんはどうですか？

黒木 校外学習の一つである、みんなで行った博物館研修が印象に残っています。農大三中・三高では座学以外の学習プログラムも多いので、楽しみながら学ぶことができます。

本橋 学んだことをグループでプレゼンしたり、自分の意見を発表したりする機会も多いと思います。もう慣れましたか？

黒木 最初は緊張してうまくいかないこともあったのですが、数をこなすことで慣れてきました。先生方も失敗を貴重な経験として捉えて、次につなげるように指導してくださるので、何事も思い切っやってみよう、と積極的になれています。

栗原 先生との距離が近いのも農大三中・三高の特長ですね。私は中学卒業の時に、学年主任の先生から手紙をいただいたことも思い出に残っています。自宅の机の前の壁に貼って、いつも励まされながら勉強をしています。

本橋 コミュニケーション能力やプレゼン力など将来に必要な力を育てていることが分かり、とても嬉しいです。これからもチャレンジ精神を忘れず、いろいろなことを吸収していきましょう。



グループコミュニケーション

他者への配慮や思いやりを育成する グループコミュニケーション型の ホームルーム活動

ホームルーム活動では「グループコミュニケーション」という人間関係づくりのトレーニングを行います。これは、あるテーマについて「自分で考える→グループで話す→プレゼンテーションをする」という流れをワークで実践するというものです。協同作業の喜びや連帯感を体感することで、他者への配慮や思いやりを育成します。また、1つの物事を多角的に捉えて考える訓練にもなり、柔軟な思考も身につきます。



情操教育/クラブ活動

十代のみずみずしい感性と創造力を磨き 仲間と切磋琢磨しながら自己を研鑽する

農大三中・三高では、狂言や講談といった古典芸能、演劇、ミュージカルなど、一流の芸術に触れる芸術鑑賞やクラブ活動による情操教育にも力を入れています。質の高い本物の芸術で十代のみずみずしい感性と創造力を磨き、仲間と協力し切磋琢磨し合うクラブ活動に打ち込むことで自己を研鑽する。五感のすべてで感じるさまざまな体験を通じて、国際人にふさわしい品格と豊かな人間性の土台を築きます。



学校行事

実学教育で培った自ら学び考える力で 全生徒が一致団結して目標に取り組む

学校生活を華やかに彩る学校行事の数々。農大三中・三高ではそのすべてを学習の舞台とし、生徒が主体となり自ら作り上げていくプロセスから多くのことを学びます。生徒全員が一致団結してアイデアを出し合う、文化祭「浪漫祭」での展示やプレゼンテーション、体育祭での上級生から下級生へのパフォーマンス指導など、中学1年から高校3年までの全生徒が深く交流しながら、人として大きく成長していきます。



食育

生きる基本である「食」から学ぶ 命を育てる真摯な姿勢と感謝の心

生きる基本である「食」からの学びを大切にしている農大三中・三高では、中学3年間、管理栄養士による栄養バランスのとれたスクールランチが、各クラスの教室で提供されます。また、中1の屋上菜園におけるグイズ栽培、中2のヒラメの養殖など、自らの手で育てた農産物を食し、味わいます。こうした貴重な体験を通して、命の大切さや食べ物のありがたさを学び、人間教育の礎となる感謝の心を培います。



向上心を持ち仲間とともに挑む、 活気あふれる姿がここにあります。

農大三中のクラブ活動は、あくまでも生徒が主体。自分たちで考え、行動し、友人と協力して互いを高め合う。そのプロセスもまた、実学そのものです。前に進むために、さらなる高みを目指すために、知恵と技を結集した結果、たくさんの喜びを共有しています。



科学部



サッカー部



バスケットボール部



オリエンテーリング部



陸上競技部



野球部



吹奏楽部



文芸百人一首部



硬式テニス部
※小学校での経験者



バドミントン部
※小学校での経験者



美術部



茶道部

(COMMENT クラブからひと言!)

野球部
野球は日常の取り組みがダイレクトに結果に表れます。この点を常に意識し、日々の学校生活を大切に過ごしています。また、仲間を思いやる気持ちを大切に、“試合で勝つ”という目標に向かい、全力で練習に励んでいます。

吹奏楽部
楽器未経験者が多く、入学式・卒業式などの式典や体育祭・文化祭、そして高校生と合同で開催する定期演奏会に出演するために、日々練習に励んでいます。吹奏楽部でしか味わえない楽しみがたくさん待っています。

自然を全身で感じられる広大なキャンパスで、 のびのびと成長できる6年間。



ホームページにて各施設の
360°パノラマビューを公開中!

埼玉県東松山市に位置する農大三中・三高。
四方を美しい緑に囲まれた静かな環境は、学習に最適な心落ち着ける空間です。実学教育をサポートする充実の施設・設備には、他校にはない専門的な機材もたくさん。次々に生まれる「なぜ?」「知りたい!」を待っています。



制服紹介 Uniform

さわやかな水色が印象的な制服ラインナップに
女子のストラックとネクタイが追加!

組み合わせ
50通り以上!



※ 令和5年度より夏用ポロシャツ(紺・白)を導入しました。

人を幸せにするために学ぶ！

豊かな自然環境の中で、生徒たちは、元気に明るくのびのびと学園生活を満喫しています。「地域社会に貢献し、国際社会で活躍する『21世紀を担う国際人』の育成を目指す」—この教育方針実践に向けて、農大三中は教育改革に取り組んでいます。「大胆なグローバル化」「実学で真の力を育てる」「学内完結型学習体制」が改革の3本柱です。

外国人留学生との交流会・語学研修など英語力を高め、異文化理解を深める豊富なメニュー。ダイズ栽培から味噌作り体験、魚(ヒラメ)の養殖研究、北海道修学旅行での新巻き鮭づくり体験など、「本物を見て触れて考える」というさまざまな体験型学習の機会。論理的思考力を高めていく場として、「論理の授業」も実施。大学現役合格にむけ、自立学習支援システム(EdOM)を導入するなど実践内容は多岐にわたります。

それぞれの教育活動の中で、生徒たちは、分析や仲間との話し合い、スライド資料の作成、浪漫祭での発表等、自らの取り組みをデザインしていきます。結果として、授業では経験できない、文系・理系などの枠組みを超えた、文理融合の教育を展開していきます。その目指すところは、自分のために学ぶことが、実は他者のために学ぶことにつながり、人を幸せにするという、社会貢献につながる学びの基盤づくりです。

広大なキャンパスでの生活、グローバルな視点での体験、一人一人の生徒に向き合い、寄り添う教師陣に囲まれながら6年間を積み重ねていきます。「なるほど!」と心を動かす授業を通して、「まず、やってみよう!」という主体的な学びの姿勢を構築し、「地域社会に貢献し、国際社会で活躍する『21世紀を担う国際人』」に皆さんを育てます。



東京農業大学
第三高等学校附属中学校
校長

神山 達人



受験生・保護者対象説明会の詳細はこちらからアクセス！

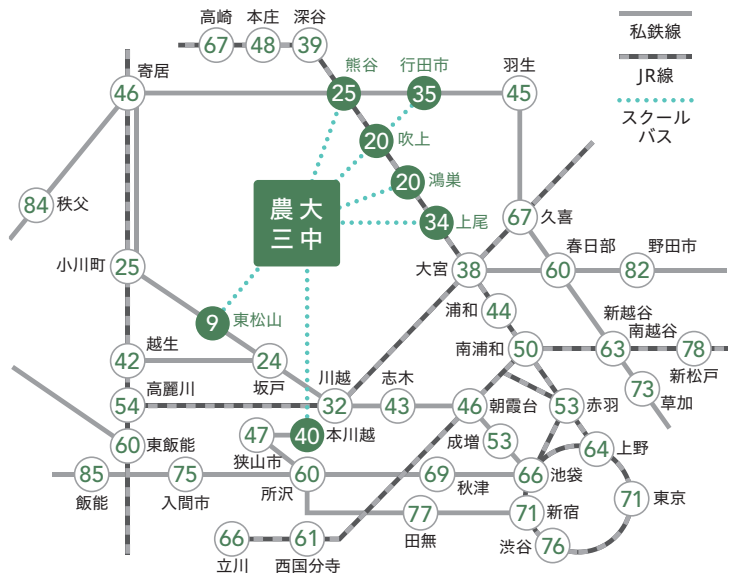
※ご来校時は、上履き・スリッパ等をご持参ください。

※本校開催のみ当日はスクールバスが運行されます。車でのご来校はご遠慮ください。バスダイヤは日程が近づきましたらホームページ等でご確認ください。

通学範囲・交通アクセス

先輩たちの通学範囲と在籍者数

熊谷市	15人	坂戸市	5人	日高市	2人
さいたま市	13人	ふじみ野市	5人	狭山市	1人
川越市	13人	志木市	5人	久喜市	1人
鴻巣市	13人	滑川町	4人	加須市	1人
東松山市	10人	川口市	3人	羽生市	1人
上尾市	7人	鶴ヶ島市	3人	三芳町	1人
朝霞市	7人	北本市	3人	吉見町	1人
富士見市	7人	本庄市	3人	東京都	22人
深谷市	7人	新座市	3人	神奈川県	1人
桶川市	6人	伊奈町	3人	千葉県	1人
和光市	5人	小川町	2人		
行田市	5人	所沢市	2人		
		合計	181人		



スクールバス発着駅

- 本川越駅 ●東松山駅 ●上尾駅 ●鴻巣駅
- 吹上駅 ●熊谷駅 ●行田市駅

※1. 数字は、駅から学校までの所要時間を表示しており、乗り換え、待ち合わせ時間は含まれておりません。

※2. 上尾駅34分は、鴻巣駅経由の所要時間であり、上尾駅直通のスクールバスを利用した場合、学校までの所要時間は約50分となります。なお、上尾路線は令和6年度以降、見直しを検討しています。



東京農業大学第三高等学校附属中学校

〒355-0005 埼玉県東松山市大字松山1400-1
TEL: 0493-24-4611 <https://www.nodai-3-h.ed.jp>



学校HP



公式Twitter



学校長公式Twitter